

千種高校(兵庫県千種町)の生徒がガイド役を務める原生林ツアーが23日、岡山県西粟倉村の若杉天然林であった。生徒2人が、京阪神地域から訪れた約30人の参加者に樹木の特徴などを説明した。

自然のまま残る森を都市住民に見てもらおうと、西宮市の自然保護団体「日本熊森協会」が毎年、同天然林でツアーを開催。昨年からは「地元ガイド」として、現地から峠を一つ越えた千種町の千種高校生が案内役を務める。

同高1年の磯崎太一君(16)は、参加者と一緒にブナやミズナラの森を歩い

都市住民に天然林ガイド

岡山 千種高生が樹木の特徴説明

た。トチノキとホオノキの葉の見分け方などを説明したほか、明治初期まで盛んだった「たたら製鉄」用の炭焼き場跡では、たたら製鉄の実習に取り組んだ中学時代の体験も披露した。

磯崎君は「口べただと実感したけど、都会の人に森を知ってもらえてよかった」。宝塚市から参加した佐久間陽さん(63)は「都会にはない深い森の中で、高校生に植生や歴史を教えてもらい感激です」と喜んでいった。(古根川淳也)

森の中で、たたら製鉄に使う炭焼きの歴史を説明する磯崎君(左端)
|| 岡山県西粟倉村

